

第 119 回経営協議会議事要録

日 時 令和 5 年 6 月 23 日（金） 13 時 30 分～ 14 時 45 分

会 場 大学本部棟 5 階 第 1 会議室

出席者（委 員）

進藤・山本・山中・窪田・野田・齊藤・佐々木 各委員

中村学長、黒澤・奥田・茅・片田・市川 各理事

（列席者）

小林理事、齋藤監事、白沢相談役、志村・土屋・種田・窪田・深澤・小谷 各部長、

中村・植村・岩元・京嶌 各課長

会議に先立ち、中村学長から、国立大学法人山梨大学経営協議会細則第 5 条第 3 項の規定に基づく本会議長の職務代行に黒澤理事を指名したことについて報告があった。

議事要録確認

第 118 回（5. 5. 26 開催）の経営協議会議事要録を確認した。

審議事項

1 令和 4 年度自己点検・評価（案）について

黒澤理事から、資料 1 により、令和 4 年度自己点検・評価の結果について説明があり、審議の結果、これを承認した。

併せて、「計画通り取組めていない」と判断された項目について、その原因を明確にし、早急に対応していく旨の発言があった。

（主な意見）

- ・ 138 項目の評価を適切に行っている。今後は評価結果として抽出された課題の解決に向けた対応が重要となる。

2 医学部医学科の入学定員（令和 6 年度）（案）について

黒澤理事から、資料 2 により、医学部医学科の入学定員に係る増員期間延長手続を行うことについて説明があり、審議の結果、これを承認した。

（主な意見）

- ・ 医療現場では医師不足を実感しており、入学定員増期間延長はありがたい。

3 令和 4 年度決算（案）について

市川理事から、資料 3 により、令和 4 年度決算（損益計算書及び決算報告書）について説明があり、審議の結果、これを承認した。

併せて、今後、本決算を詳細に分析し、課題等に対応していきたい旨の発言があった。

4 令和6年度概算要求（案）について

市川理事から、資料4により、令和6年度概算要求について、「教育研究組織改革」については、5事業（新規2事業、拡充1事業及び継続2事業）を選定したこと及び要求順位等の取扱いについては学長一任としたいことについて説明があり、審議の結果、これを承認した。

（主な意見）

- ・教育研究組織改革について、内発的な要請（エネルギー）が伴わないと、ただ形を変えるだけになってしまうため、研究者の意欲が高まるものにしていただきたい。

5 業務上の余裕金の運用にかかる文部科学大臣の認定について

市川理事から、資料5により、積極的に資金を獲得できるよう、資金運用管理委員会を整備した上で国立大学法人法第34条の3における業務上の余裕金の運用にかかる文部科学大臣の認定第2の取得申請を行うことについて説明があり、審議の結果、これを承認した。

報告事項

- 1 令和4年度補正予算・令和5年度当初予算における大型補助金の申請状況等について
市川理事から、資料6により、標記大型補助金等の申請状況等について報告があった。

その他

- 1 令和5年度経営協議会開催予定について
中村学長から、9月以降の会議開催日程を調整した結果、11月の開催日程を変更することとした旨の説明があった。
- 2 千葉工業大学との連携強化について
中村学長から、本学と包括的連携協定を結んでいる標記大学にて意見交換を行ったことについて報告があった。主な内容としては、協定締結から1年が経過し、共同研究やインターンシップの取組みが進展していることを確認しており、今後は大学院生の交流（単位互換）やキャリア教育の相互協力を積極的に進めていくなど連携を強化したい旨の説明があった。

次回会議 令和5年9月22日（金）13時30分から開催することを確認した。

学外委員からの意見・質問

審議事項

1 令和4年度自己点検・評価（案）について

（野田委員）

No. 28 の項目について、「計画以上の取組」と評価されており、とても素晴らしい取組内容である。また、附属病院の機能強化に向けた取組みとして、県内医療の懸案事項でもある救急体制の維持に関して、附属病院での初期救急（ER）体制づくりを是非具体化させてほしい。

（中村学長）

本日欠席の木内理事に申し伝えておく。

（山本委員）

「計画通り取り組めていない」との評価となった事項について、当初の制度設計に無理があることも有り得るので、その場合は計画の修正も検討すべきと考える。

（黒澤理事）

クロスアポイントメント制度による実務家教員受入れの件については、初年度ということもあり受入れがなかったため「計画通り取り組めていない」の評価となった。学内研究プロジェクトの審査委員会に外部評価委員を加える件については、早急に対応する。

（片田理事）

クロスアポイントメント制度による実務家教員は、令和5年度から毎年2人ずつのペースで受け入れる予定であるため、計画を達成できる見込みである。

（窪田委員）

広報における媒体・手段の選択は、甲府市においても課題と認識しており、有効な手段等があれば教えていただきたい。

（中村学長）

達成できていない課題については、改善に向けて対応していく。また、広報は本学でも重要課題と位置づけているため、情報交換させていただきたい。

（片田理事）

広報の直近の取組みとして、広報の委員会組織を整理し効率化した。また、学生向けの広報手段として、学生サークルと連携し、学生目線で大学の魅力を発信してもらう取組みを始めるところである。

2 医学部医学科の入学定員（令和6年度）（案）について

（長田委員）※欠席委員から事前に頂いた意見

山梨県は人口当たりの医師数が低い状況であり、医師不足の対応のため、今回の入学定員の増員期間延長の手続きは妥当と考えるとともに、取組みに感謝している。引き続き、地域医療の確保に向けて努力いただきたい。

(野田委員)

本会の協議事項ではないかもしれないが、医学部医学科の入試日程について、現状では前期日程での試験を実施していないが、特に地元山梨県の意欲ある高校生の受験機会を増やすため、実施について検討をお願いしたい。

(中村学長)

御意見を踏まえ、大学全体の入試方法見直しの中で本件についても検討していきたい。

(佐々木委員)

医学科卒業生のうち何割程度が山梨県に定着し地域医療に従事しているのか。今後も地域に定着するよう努力してほしい。

(志村総務企画部長)

地域枠の卒業生については、その多く（おそらく9割ほど）が山梨に定着していると認識している。

(市川理事)

山梨県では、医師不足が全国的な課題となった時期から医師の増員、地域定着のため補助制度（奨学金等）を通して支援を行っている。

3 令和4年度決算（案）について

(進藤委員)

決算余剰金について、以前の本会において、病院収入増が30億円程度見込まれるとの説明があったが、その増収分との認識でよろしいか。

(市川理事)

病院の経営努力の結果であると認識している。

(片田理事)

コロナ関係補助金による利益は一昨年がピークで昨年度は減少していると考えられる。一方、病院の診療報酬が増えた結果として、決算余剰金が生じたものと考えられる。

報告事項

1 令和4年度補正予算・令和5年度当初予算における大型補助金の申請状況等について

(山本委員)

学内構成員の共通理解が得られるよう、学内広報を工夫していただきたい。

(中村学長)

御意見を踏まえ、学内で説明や意見交換の機会を設けるなど、理解を深めるよう働きかけていく。